

共格別不都合之次第も無之然ルニ帰校後十数名醉奥ニ乗シ舎内ニ於テ吟詩或ハ討論等イタシ〔且甚シキニ至リテハ右等之者之中十数名〕且其際右等ノ者ノ中体操場ニ於テ他之生徒ヲ嘲昇シ或ハ手出等ニも及び候所業有之候由ユヘ難棄置ニ付夫々審問ヲ遂ケ其〔首タルモノ〕甚シキ者四名ハ退学申付十二人ハ禁足申渡置候条別紙姓名付相添此段御届申上候也

九年十一月八日 東京開成学校校長補濱尾 新

文部大丞 九鬼隆一殿

〔抹消〕〔本科下級〕 法学本科下級生徒 増島六一郎 千頭清臣

予科第一級甲生徒 福富孝季 城多虎雄

右四名退学ヲ命ス

本科上級化学 久原躬弦 同 宮崎道正

本科中級法学 山岡義五郎 本科中級化学 磯野徳三郎

本科下級化 ○西 松二郎 同 法 ○大谷木備一郎

同 化 富谷光孚 同 工 二見鏡三郎

予科一級甲 ○河原勝治 同 一級乙 菅谷正樹

同 二級乙 大八木喬栄 同 上 垣田連太郎

右〔十二〕〔九〕名〔四週間〕禁足

〔欄外注記3〕

長〔花押〕〔抹消〕〔五十嵐恭次〕書

本校元法学本科下級生徒増島六三郎千頭清臣及予科第一級生徒

福富孝季城多虎雄之四名事故有之去ル十一月五日退学申付其旨

聞届申上置候処其後前非悔悟候旨ニテ屢人ヲ以テ再入学之儀願

63 東京開成学校法学本科生徒増島六一郎・大谷木備一郎他

十四名退学及び禁足に付届 〔明治九年十一月八日〕

〔欄外注記1〕

長〔花押〕〔抹消〕〔五十嵐恭次〕書

去ル三日天長節ナルヲ以テ本校生徒中七八十名王子辺ニ遊歩之御同処ニ於テ飲食致シ中ニハ酩酊ニおよび候者も有之趣ニ候得

出相成居候処遂ニ別紙之通誓言モシ願書差出候間其清実ヲ密ニ

探訪候(抹消)〔ノ処〕ニ全ク願向之通自省セシニ相違無之ニ付右ハ酩

酩之上一時之失陥(抹消)〔ヲ以テ〕退学之罰ヲ受候事ニテ他ニ不都合

之廉も無之然ルニ今自省之廉ヲ以テ再入学差許(抹消)〔不申〕サレハ

遂ニ彼等も修身之目的ヲ失ヒ候様立到ルベク実ニ愍然之次第ユ

ヘ昨廿五日ヲ以テ増島六三郎城多虎雄之兩名ハ本入学差許千頭

清臣福富孝季之兩名ハ仮入学差許尚後來学業之勉励ト行状之端

正トヲ驗シ候上本入学可差許段相達候ニ付此段御届申上置候也

九年十二月廿六日 東京開成学校長補 濱尾 新

文部大輔代理文部大丞 九鬼隆一殿

(別紙欠)

(欄外注記4) 長

(欄外注記5) 書 (五十嵐恭次) ④

去ル十一月五日退学申付候増島六三郎外三名今般前非後悔再入

学願出候ニ付増島六三郎城多虎雄ハ本入学千頭清臣福富孝季ハ

仮入学差許候ニ付其旨本日御届申上候処増島義ハ固ヨリ貧困ニ

テ曾テ給費生ニ有之候事ユヘ到底自費修業難相成者ニ付従前之

通本月廿五日ノ給費生トナシ申度又千頭福富之兩名も同様貧生

ニテ元給費生之義ユヘ是又追テ学業之勉励ト行状之端正トヲ驗

シ本入学差許候節ニ至ラハ如旧給費生トナシ申度此段も予メ相

伺置候条右兩件至急御允許有之度候也

明治九年十二月廿三日 東京開成学校長補 濱尾 新

文部大輔代理文部大丞 九鬼隆一殿

(欄外注記1)

「開第二百十五号」

(欄外注記2)

「〇右三名六週間禁足」

(欄外注記3)

「(朱書) 開第貳百六十一号」

(欄外注記4)

「開第貳百六十二号」

(欄外注記5)

「(岸鉄次) ④」

『文部省往復』明治九年甲、④A15」